

会長挨拶

最近の世相を考える

会長 小寺 一夫



世界各地でテロが発生しています。特に自爆テロというのは単なる自殺ではなく、英雄願望・自己陶醉型の殺人です。来年は日本で「伊勢志摩サミット」を控えていますので、万全の警備はもちろん、国民全体がテロをさせない意識改革と環境創りをしていかなければなりません。

また、昨今の青少年の常軌を逸した殺人事件において、「人を殺してみたかった」「そこにいる人なら誰でもよかった」と供述しています。彼らはゲーム感覚で殺人をしているのでしょうか？ゲームが終わると生き返ると錯覚しているのでしょうか？ゲームで満たされないので本物志向化したのでしょうか？倫理道德で鎮めていた魔性が、ゲーム脳で麻痺して箍が緩んで徘徊し始めたのかも知れません。仮想世界と現実世界の狭間から破滅の狂気が闊歩しているようです。

私の少年時代には学校から帰るとカバンを置いて暗くなるまで外で遊んでいました。公園、田んぼ、神社の境内等、遊び場所には困りませんでした。今の子どもたちは学習塾、習い事、スポーツ少年団等で大忙しです。忙しいせいか、街を歩いていると、学生のみならず一般の通行人までもスマートフォンを操作しながら歩行しています。よく自転車や他の歩行者と衝突しそうな光景を目にします。

私は毎朝散歩をしています。散歩の魅力の一つは出会った人と挨拶ができることです。「おはようございます」「行ってらっしゃい」などの言葉は人を幸せにさせてくれる潤滑油のような言葉です。スマートフォンを操作してはこの素晴らしい言葉を発する機会を失ってしまいます。家族でレストランに行っても、スマートフォンを操作しています。これでは折角の料理を美味しく味わうことができません。レストランでは美味しい食事を囲んで相手との会話を楽しみましょう。私たちの周りには独居世帯や年寄り二人暮らしの世帯が増加しています。そのような人に出会ったら声を掛けてみましょう。そのような気遣いや優しさ、人との絆がボランティアの原点であり、第一歩となるでしょう。

特定非営利活動法人とちのみ支援会の活動

○保健・医療・福祉についての講演会に関する事業（健康講座）○高齢者及び心身体障害者への身体介護・生活援助に関する事業○高齢者及び心身体障害者との交流に関する事業（手技療法ボランティア、傾聴ボランティア）○医療・介護・社会福祉の情報紹介に関する事業（健康講座、会報発行）○不登校児童等のカウンセリングに関する事業（青少年健全育成講座）○婚活イベントの運営に関する事業（婚活のためのパーティ・ハイキング・バーベキュー等）○結婚相談所の運営に関する事業（婚活登録事業）○結婚セミナーに関する事業（結婚と家庭セミナー）



今日、人口減少が大きな社会問題になっております。特に地方自治体に於いては深刻であります。政府に於いても色々と取り組んでおられるようですが、延々として施策が好転しておりません。

若者たちが就職し社会にどのようにして入っていくかを考えてみたいと思います。1990年代後半頃から高卒の求人数が激減しました。正規社員ではなく非正規労働者（アルバイト・パート・派遣雇用）は増加しておりますが、今は雇用全体のうち、若者、18～35才においては3人に1人が非正規です。女性の場合は一層厳しく、おおよそ2人に1人です。非正規がなぜ問題なのかといえば、非常に労働条件が悪く、女性や学生らは一人では食べていけなくとも良いという存在として見られているように思われます。賃金が低く設定されてきたことも背景にあります。90年代後半以降は男性にも増えています。最近やっと女性の貧困に注目が集まり始めました。ある高卒の女性に聞いてみると、家計が苦しいので働きながら専門学校（准看護学院）へ行き、その後正看護師になりたいと言っていました。それはそれでしっかりとした目的を持ち、資格を取得することですから立派だと思いますが、ただアルバイトやパート、派遣労働者では本当に経済的に不安定な状況におかれています。結婚に踏み切れない、たとえ結婚しても経済的に不安定な働き方であれば子供を産み育てていくことも困難で、あきらめる若い夫婦もいるのではと推察致します。最近には特に働き方が多様化してきており、昔のような終身雇用で、三世代同居の家庭が減少しています。家族がお互いに助け合い支え合うことができる家庭が望まれています。

近年、特に核家族が進み、それが当たり前の世の中のようになって参りました。その結果、各市町村では世帯数は増加しますが、人口は減少傾向になっております。政府の試算では出生率は現在、1.4%ですが、1.8%まで増加させるように努力したいとのことです。少子化担当大臣、一億総活躍担当大臣、地方創生担当大臣等、色々な施策を考えておられるようですが、各大臣独自ではなく連携プレーで、最低でも出生率2.5%以上でないと人口減少の歯止めにはならないのです。結婚しても色々な要因でどうしても子供を授かることができないご夫婦もありましょう。人口減少は国力の減少や地方自治体の衰退にも直結する問題であります。核家族世帯の増加により一人暮らし世帯も老夫婦世帯も増加しているのも事実であります。三世代同居であれば、現代の70代、80代は健康なら、いくらでも子どもたちを見守り、家庭を守って行けます。三世代同居であれば若夫婦も安心して外に出て仕事や地域社会のことで活躍できるのであります。女性もアルバイトやパートや非正規での働き方ではなく、正規社員として活躍できる道も開けると思います。

2015年4月1日より施行された東京の「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例（いわゆるパートナーシップ条例）」というのがあります。この条例には数多くの問題点が存在しています。同性カップルにパートナーシップ証明書を発行するということであり、男女が婚姻届を提出して認知されたことと同等の証明になるとのことです。このようなことを他の市町村も追随して施行されることになると、同性婚が増えるのではないかと危惧されます。現代の若者たちは「未婚は私権、自由だ」と平気で言う社会風潮があり、国民全体で考えていかなければと思います。日本国憲法第24条には「婚姻は両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力



により、維持されなければならない」とされているように、同性婚は認められていないのです。ゲイやレズのように極少数の人たちの私権を守るためになぜ良識のある渋谷区議会が「パートナーシップ条例」を可決成立されたのか理解ができません。米国や一部の国で認められているそうですが、何でも真似をしなくてもいいように思います。民主主義、自由主義は大切なことではありますが、世の中、社会の方向性を今一度考えていかなければと思います。



ボランティア推進富山
県民会議会長表彰を受
けた田川春朗顧問の牌

本会も4月1日より、会員一丸となり、新規事業として婚活事業を開始した次第です。本会は非営利活動法人でありますから登録料は無料ですので、県内外からも多少登録がされております。次年度からは本格的に活動致します。ご本人はもちろん、親御さんもお遠慮なく申し出て下さい。専門アドバイザーも数名おりますので、お気軽にご連絡頂ければ親身になってご相談にのります。

本会の婚活事業も社会貢献の一助となればと、役職員は日夜研鑽をしているところであります。会長、副会長を始め役職員の皆様は、特に創造性と発想力を発揮して頂き、本会の進歩、発展、向上のために活動にあたって頂きたいと思います。失敗したらどうしよう、上手くいかなかったらどうしようとかは全く考える必要はありません。チャレンジ精神で努力することが大切であります。昔、松下幸之助（松下電機・ナショナル・パナソニックの創設者）は、「私は絶対に失敗は致しません。成功するまで努力致します。」と

社員に言われたそうです。私も16年前にNPO法人という制度が小渕恵三内閣の時に制定されたので、いち早く法人格を取得したものであります。現在は顧問として後進に道を譲った訳であります。今なお、定例会等で皆様に強い口調で苦言を呈したり致しますが、本会の進歩、発展、向上を希うために申し上げているのであります。実践躬行をして行かなければなりません。末筆になりましたが、今年も後僅かとなりましたが、新年度も本年以上にボランティア精神で国家国民、地域社会のために尽力致しましょう。

雑 感

ウォーキング

理事 高田 義史



最近、ウォーキングを始め、毎日1万歩を目安に歩いています。家の周辺を中心にアウトレットパークや道の駅にも寄りながら楽しく歩いて、アウトレットパークでは階段を利用して昇降運動をしたりして、歩き方も工夫しています。万歩計をウエストに付けて、約2時間歩いています。アウトレットパークには美味しいパン屋があり、家人から買い物を頼まれて買って帰ることもあります。「ありがとう」の声に励まされ、運動と買い物の一石二鳥で楽しく効果を期待しています。12月には近くにアルビスができることになり、益々行動範囲が広がります。三日坊主の私ですが、今回は続けられそうです。

ひとくち川柳

- ★ とちのみはゆるキャラたちの溜まり場だ ～メルギューくんの友達～
- ★ 定例会 低迷会に格下げか？ ～定例会議長～
- ★ ボランティア 電話と同じで エコモード ～最新機種 of 男～
- ★ 丸投げの 役員の肩 恐るべし ～受け身の事務局員～



随 想

相談役として執行部に苦言を少し

相談役 林 國夫



本会も設立以来 16 年になります。私も長年副会長を経て、現在は相談役として、本会の最高齢(満 83 歳)の長老です。入会して 14 年間、奉仕の理想を掲げ、様々な社会貢献をしようと東奔西走し、企画立案・実践して参りました。想い出としては新潟県の中越沖地震や東日本大震災で、当時柏崎市や宮城県気仙沼市の社会福祉協議会とコンタクトを取り、各避難所へ出向いて懸命にボランティア活動をさせて頂いたことです。各学校の体育館にブルーシートを敷き詰めて、畳 1 畳の段ボールに座布団を折り曲げて枕され、心身ともに疲労困憊されていた被災者が大勢おられました。そのような折に、私どもが手技療法や傾聴ボランティアで、心身を癒して差し上げて、皆様に喜ばれたことを今なお脳裏に焼き付いています。もちろん、地域の長寿会や老人クラブ連合会等からの要請があれば、その都度奉仕活動をしてきたことも良き思い出です。

無事息災であることは一番平穏であります。災害は何時やってくるかわかりませんので、常日頃からお互いに備えておかなければなりません。常に家族や若い人たちにも「何時までもあると思うな 親と金、ないと思うな 幸運と災難」と諭しております。備えあれば憂いなしの精神です。

本会の執行部にも、この老体の相談役から少し苦言を呈したいと思います。会長は本会のトップリーダーとしてしっかりとしたガマナンスで力強く牽引して、組織の発展のために日夜思考と実践を行って頂きたいです。副会長は企画部会長でもあり、自らの職責で会長をしっかりとサポートし、アイディアと思考を駆使し、役員の方となり牽引して頂きたいです。会長・副会長はもちろん、各役員も定例会や各事業の開催には万難を排して出席して責任を果たして頂きたいです。各役員は自らの職務を熟考して、職務トリアージ能力を発揮して、責任ある組織運営に携わって頂きたいです。舅根性で色々申し上げましたが、私自身も 90 歳卒寿になるまで、当会の発展のために、社会奉仕・社会貢献に一路邁進する覚悟でございますので、今後とも宜しくお願い致します。

寄 稿

運もチャンスも必ず人がもたらす

監事 長澤 信治



皆さんは、勝負運・仕事運・幸運・金運・・・これらをつかむためには、何をすべきだと考えますか。私は「ご機嫌でいること」が社会人としてのマナーであり、必要なスキルだと思っています。上機嫌でいること、些細な事にムツとしないこと、プライベートのストレスを現場に持ち込まないこと。上機嫌でいられない理由があっても、まったく関係ありません。会社勤めをしている人も同様で、同僚も取引先の人も、あなたの不機嫌とは無関係です。たとえ相手のせいで不機嫌になっているとしても、それを表に出すのは大人としていかなもののでしょうか。お互いに不機嫌になる材料を持ち寄っても、清々しい問題解決への道は開けません。表面を取り繕ってでも、笑顔で冷静な話し合いをすることで、ようやく問題解決への糸口が見えてくるのです。そのため、誰一人として不機嫌でいてはいけません。それは職業倫理に反することです。

私は、自分に合ったように「常にご機嫌でいること」をテクニックとして習得していかななくては

ならないと思っています。

そう考えたのには理由があります。実は私自身、自分を思い返すと、決して社交的な人間ではありませんでした。そのせいで、私のまわりにはあまり人が集まりませんでしたし、友達も少なかったのです。当然、人望もなかったと思います。しかし、あるとき偶然参加した飲み会で、先輩から興味深い情報をもらいました。その飲み会に出ていなかったら、今の私はいなかったでしょう。このことからわかるように、人間社会において運やチャンスをもたらすのは必ず「人」です。「ご機嫌」で適度な人付き合いをし、気持ちのいい人間関係を築くことが運を呼び込む秘訣だと考えます。皆さん、極力笑顔でご機嫌でいきましょう。

雑 感

歳月は人を待たず

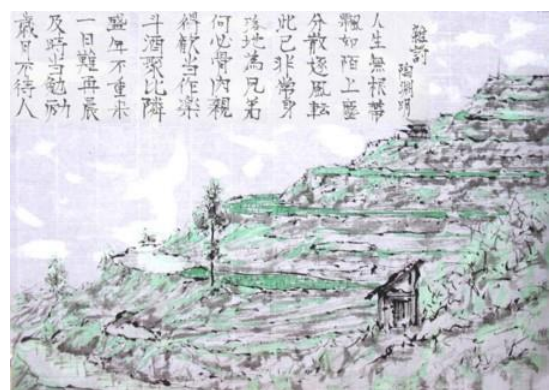
副会長 服部 良三



私は来年の2月で68歳になります。最近は今までに経験したことがないくらい、光陰矢の如く流れます。これは私だけではなく、同年齢の友人から年上の先輩に至るまで同様な感覚に陥り不思議な気持ちです。充実した人生だと解釈もできますが、脳の老化現象の一種なのかと危惧もしています。

現在健康で仕事をしており、この先2年程は大丈夫だとは思いますが、その先の人生の過ごし方を思うと不安になります。現在も雨天の休日になると、体を持て余しています。特に冬になると趣味のパークゴルフや軽登山ができず、何となく酒を飲んで、ゴロゴロと一日を過ごす機会も生じます。心身共に不健全ですので、何か運動やボランティアなどの打込めるものに投入して、楽しく生きようと思っています。ここで私の好きな東晋・宋の詩人・陶淵明の『雑詩』の最後の部分をご紹介します。

人生根蒂（こんてい）無く、
飄（ひょう）として陌上（はくじょう）の塵の如し。
分散し風を逐（お）いて転じ、
此れ已（すで）に常身に非ず。
地に落ちて兄弟（けいてい）と為る、
何ぞ必ずしも骨肉の親（しん）のみならんや。
飲を得ては当（まさ）に楽しみを作（な）すべし、
斗酒、比隣を聚（あつ）めよ。
盛年（せいねん）重ねて来らず、
一日（いちじつ）再び晨（あした）なり難し。
時に及んで当に勉励すべし、
歳月は人を待たず。



【現代語訳】人の命には木の根や果実の蒂のような、しっかりした拠り所がない。まるであてどなく舞い上がる路上の埃のようなものだ。風のまにまにあちらこちらへ吹き飛ばされて、この身は、もはや元の姿を保ち得ない。そんな世の中に生まれ出たからには、すべての人が兄弟のようなもの。肉親だけに限る必要はさらさらない。嬉しい時には、心ゆくまで楽しみ、酒をたっぷり用意して近所の仲間と一緒に飲むがよい。若い時は二度とやって来ないし、一日に二度目の朝はない。楽しめるときには、せいぜい楽しもう。時というものは人を待ってくれない。（岩波文庫 陶淵明全集 松枝茂夫・和田武司訳注）

活動報告

子育てサポートの研修会

理事 久津呂 武由



7月14日(火)、子育てサポートの研修会が高岡商工ビル 802、803 会議室で午後1時から開催され、本会より田川春朗顧問、小寺一夫会長、増田太美男財務部長代行と私が出席しました。

開会の挨拶には子育てサポーターの岡本班長様がされ、講師として富山大学人間発達科学部准教授の若山育代先生が「地域における幼児と児童の発達について考える」という演題で講演されました。その後実技で「おもちゃ制作」があり、一般社団法人富山県児童クラブ連合会事務局長の清水保夫先生が色々な子どものおもちゃ造りを指導されました。そして6人体制で1班から12班に分かれて情報交換を致しました。終わりに県からののお知らせ等があり、午後4時で閉会しました。今回新たな情報もあり、これを生かして子どもの育成のために頑張っていきたいと決意を新たにしました。

健康講座

7月26日(日)、午後2時より南砺市福光公民館において、「健康講座」を開催しました。小寺一夫会長を始め、服部良三副会長、林國夫相談役、廣田秀徳総務部長、高田義史理事、渡辺一郎理事、増田多美男財務部長代行、野原直人氏と私が出席し、私は進行役をしました。本会創設者の田川春朗顧問が講演予定でしたが、諸般の事情で、急遽小寺一夫会長が「健康で長寿に生きるには」と題して語り、高田義史理事と共に実技も兼ねて講演しました。次に(有)ヨベル社長でもある渡辺一郎理事が「健康長寿と生活習慣」と題して講演しました。参加者は充実した内容に、健康で長寿で生活するヒントを学ぶことができたと言っていました。

NPO 法人富山県腎友会の講演

8月23日(日)午後1時より、小矢部市の津沢コミュニティプラザにおいて、NPO 法人富山県腎友会の「糖尿病、慢性腎臓病の講演会」が開催され、富山県腎友会事務局の坂田さんの紹介で本会の服部良三副会長、片岡氏、中澤氏、多胡氏と私の5人で出席しました。糖尿病、慢性腎臓病に関心のある人やそれに従事する多くの人々が参加しました。主催者のNPO 法人富山県腎友会から開会の挨拶があり、第1部では「糖尿病性腎症を予防するには」という題で市立砺波総合病院・糖尿病内分泌内科部長の早川哲雄先生が講演し、第2部では「糖尿病性腎症の食事について気を付けるポイント」と題して、富山県済生会富山病院診療部栄養管理科係長竹ノ内弘美先生が講演しました。糖尿病、慢性腎臓病に関して分かり易くかつ詳しく説明して頂きました。また、服部良三副会長が質問事項を箇条書きにして提出すると、後日早川哲雄先生から回答が自宅に送られて来ました。

施設での手技療法ボランティア

9月13日(日)、本会監事でもある長澤信治社長が経営する「ケアタウンふくおか」で手技療法ボランティアを実践しました。田川春朗顧問、小寺一夫会長、林國夫相談役、廣田秀徳総務部長、高田義史理事、増田多美男財務部長代行、野原直人氏と私が参加し、有資格者の田川春朗顧問、小寺一夫会長、高田義史理事が施設利用者の皆さんの診察をされ、他の会員は補助をしました。

第 27 回富山県民ボランティア NPO 大会フェスティバル

9 月 29 日(火)午後 7 時より、富山県総合福祉会館(サンシップとやま)7 階 701 室において、「第 27 回富山県民ボランティア NPO 大会参加団体説明会」に本会を代表して服部良三副会長と私が参加しました。10 月 31 日(土)のボランティア NPO 大会の最終打合せで、会場構成、タイムスケジュール、諸準備等を念入りに行いました。

10 月 31 日(土)午前 10 時から富山市総曲輪のグランドプラザにおいて「第 27 回富山県民ボランティア NPO 大会」が開催され、本会もブース展示スペースに参加しました。ブースの設営等の準備は午前 9 時から行い、田川春朗顧問、小寺一夫会長、廣田秀徳総務部長と私が参加し、会場は多くのボランティア団体・NPO 団体関係者や一般県民で盛況でした。

私はボランティア NPO「一言メッセージ・川柳」に応募し投票数が多かったので記念品として図書カードやその他景品を頂戴しました。



主 張

現在の選挙制度は問題

財務部長代行 増田 太美男



現在の日本においては、衆議院では小選挙区比例代表並立制で、参議院では選挙区と比例代表に分けて選挙が行われています。日本は民主主義国家として、民意を反映した議員選びをしなければなりません。ところがそうなっているのでしょうか？

先の衆議院議員総選挙に於いて、自民党の得票数は小選挙区で約 43%、比例で約 27%でした。また、投票率が低いので全有権者に占める得票率は、小選挙区で約 24%、比例区で約 16%でした。このような状況に於いて、自民党は小選挙区では議員定数 300 人の 8 割近くも当選者を出しています。比例区を加えると 480 人の 6 割強の当選者を出しています。

また平成 13 年参議院議員通常選挙に於いては、自民党の得票率は比例代表約 35%、選挙区約 43%で、議員定数 121 人の内 65 議席を獲得しています。投票率は 53%強ですから、全有権者に対する得票率は非常に低いということになります。このようなことから誰が見ても小選挙区(参議院も一人区が多い)は死に票が多い制度だということが分かります。

その他に一票の格差の問題があります。衆議院議員総選挙では 2 倍以上、参議院議員通常選挙に於いては 5 倍近い格差があります。裁判所には違憲状態とか解りづらい表現は使わずに、はっきりと違憲であると判断して貰いたいものです。そして正常な 1 倍に近づけて頂きたいのです。

以上のようなことから私は選挙制度を衆議院議員総選挙は 1996 年以前の中選挙区制に戻すべきだと思います。参議院議員通常選挙も選挙区選挙は県を越えて合区して拡大し、一票の格差もなくして中選挙区制にすべきだと考えます。現状に於いて直接民主制導入が困難なので、国民主権国家としてせめて、国民の声を公平公正に平等に反映する仕組みを作ることが大事です。党利党略・私利私欲にまみれた国会議員であってはなりません。自分を犠牲にしても、国家国民の利益のために尽くすという心構えで、選挙制度改革をして貰いたいのです。権力と利権の上に胡坐をかいて、勲章まで貰おうという、ただそれだけの国会議員はご免被りたいものです。



聖書の「ルカによる福音書」に以下のような説話があります。ある人がエルサレムの都からエリコという町へと下っていく途中、追いはぎに襲われてしまいました。追いはぎはその人の持っているもの全てと着ていた服を剥ぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま行ってしまいました。ある祭司がその道を下ってきましたが、息も絶え絶えのその人を見ると道の向こう側を通って行ってしまいました。それからレビ人(祭司の下働き)もやってきましたが、その人を見るとやはり道の向こう側を通って行ってしまいました。しかし次にそこを通りか

かったサマリア人(ユダヤと移民との混血)は倒れているその人を見ると、気の毒に思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして自分のロバに乗せ、宿屋に連れて行って介抱しました。そしてその翌日、デナリオン銀貨2枚を取り出して、宿屋の主人に渡してこう言いました。「この人を介抱してください。費用がもっとかかったら帰りがけに払いますから。」

このサマリア人の説話を次のような理由からボランティア活動と見ることができます。ボランティア活動の理解には、「自発性」「無償性」「利他性」「先駆性」という要素が挙げられます。

「自発性」とは、他者による強制ではなく、自らが選択して自由意思によるということです。「無償性」とは、何かの報酬や対価を求めて行うものではないということです。「利他性」とは、他の人や社会のために行うということです。「先駆性」とは他者がしないことを創造力と自由な発想で担うことです。

「自発性」は慈悲や愛情、誠実さ、思いやりなどの情的な衝動が原動力となって発露します。マザー=テレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」と語りましたが、情的衝動がなければ、追従的状态か無関心な状態だと言えます。まずボランティアをするにあたり、この動機の部分に純粋な衝動がなければなりません。「無償性」は見返りを期待しないことで、自分の損得とは無縁なものです。「ギブ アンド ギブ」精神、「愛は与えて忘れなさい」の精神です。「利他性」は自分のことよりも他人のことを優先し、他人の損得を考え、他人の喜ぶ姿を共に喜ぶ姿勢とも言えます。人間は大別すると利己的人間か利他的人間かに分けることができますが、実はグラデーションのように漸進的なものです。どちらの要素が強いのかは、環境や時間によっても違いが出ます。また生来の気質の違いもあるのです。「先駆性」は柔軟な発想と特異な創造力で、他者、社会、国家、世界が必要としているが、まだシステムが出来上がっていない部分を開拓し、実践するところにあります。既存の思考や社会通念にとらわれない姿勢が重要です。私たちはNPO法人に属していようがいまいが、このような精神、このような要素を理解して活動が続けたならば、共に幸福を分かち合う理想的な社会、国家、世界を建設して行くことができるでしょう。

編集後記

あっと言う間に年の瀬になり、何となく気忙しく感じられます。来年は丙申年、サルのような行動力を発揮して、積極的に新しい企画・発想を展開したいものです。さて会報第7号ができました。ホームページ同様ご愛読ください。これからも本会の活動を対社会的にもアピールしていきますので、会員拡大や婚活を始めとして新規事業の拡大に共に力を合わせて行きましょう。(廣田記)

平成27年12月10日印刷

平成27年12月15日発行

特定非営利活動法人 とちのみ支援会会報 とちのみ

編集 NPO法人とちのみ支援会事務局

発行 NPO法人とちのみ支援会

発行責任者 廣田秀徳

所在地 〒932-0051 小矢部市今石動町2丁目13-13

電話 0766-67-3899 FAX 0766-61-3525

メール hyde.hirota@gmail.com